教育センター通信

第5号(通算142号)
令和8年9月30日
三条市教育委員会
教育センター発行

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

小中一貫教育
トップページ☞



わくわく科学フェスティバル
8月6日（木） 体育文化会館

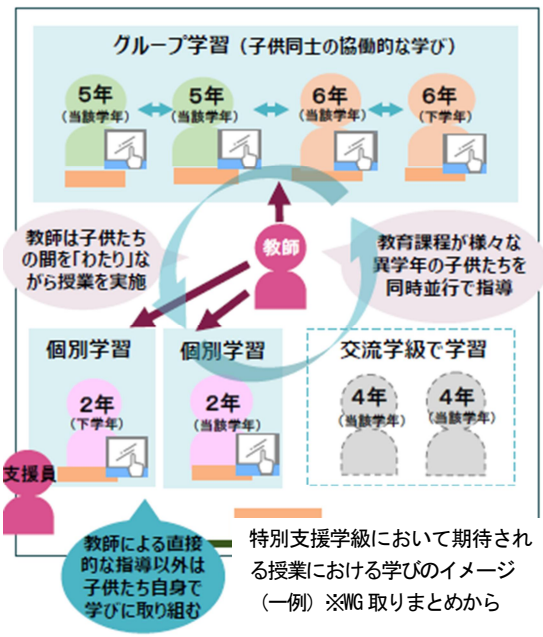


特別の教育課程の編成で、子どもの「できた、分かった、楽しい」を実現

学校教育課　指導主事　　田辺　俊勝

特別支援学級では、児童生徒が障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するとともに、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感や達成感をもてるように、次のように適切な教育課程を編成することが必要です。

○自立活動の指導を取り入れること
○児童生徒の実態に応じた教育課程を編成すること
　例：各教科の目標や内容を下学年のものに替えたり、
　　知的障害特別支援学校の各教科等に替えたりする
　例：各教科等を合わせた指導を行う



特別支援学級において期待される授業における学びのイメージ（一例）※WG取りまとめから

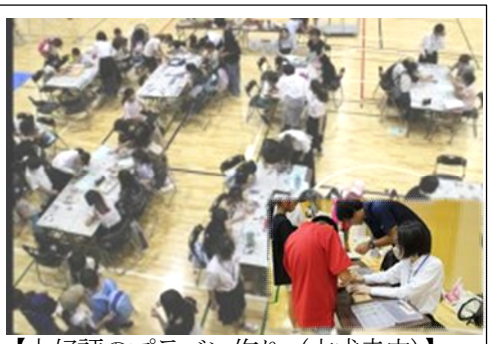
しかし、中教審教育課程部会特別支援教育ワーキンググループ取りまとめ（案）（令和8年8月3日）では、特別支援学級の在籍者数が急増している中、障がいの程度等が様々な異学年の子どもたちが同一の学級で学ぶことで、同一学級内で複雑な教育課程の編成・実施が求められることに、難しさを感じている学校現場の状況を報告しています。その方策として推奨していることが、右図にある「教師による直接的な指導と子どもたち自身の学びの適切な組合せ」と「デジタル学習基盤の活用」、教師が子どもたちの間を「わたり」ながら授業を実施することなどです。学級の子どもたちの実態を踏まえ、1時間の授業をどのようにマネジメントするかは、教師の腕の見せ所であり、授業づくりの醍醐味の一つです。ぜひ、児童生徒の教育的ニーズから教育課程を編成するとともに、先生方の創意工夫で、子どもたちの「できた」「分かった」「楽しい」をたくさん引き出していただきたいと思います。

科学教育センター NEWS！

科学する心を育む「わくわく科学フェスティバル」今年も大成功！

毎年恒例のわくわく科学フェスティバルは、今年で、21回目となりました。参加者は保護者を含め500名、出展関係者や活動支援スタッフを含めると640名を超える大きな行事となりました。

ブースの出展には、第一中学校や本成寺中学校をはじめ、市内・県内の中学校や中等教育学校、高等学校や高等専門学校、大学やNPO法人、企業など14団体の協力を得て17のブースを出展することができました。また、新潟大学教育学部の学生や新潟県央工業高等学校の機械工作部員、市内教職員からは、活動支援スタッフとして協力していただきました。本当にありがたいことです。



【大好評のプラバン作り（本成寺中）】



【恒例のスライム作り（第一中科学部）】

三条市の子どもたちに科学する楽しさを感じてほしいと始まったわくわく科学フェスティバルです。子どもたちの様子をみると、その目的を十分達成していると感じています。

飛行機がよく飛ぶコツを見つけようと何度も挑戦する子。気に入った作品になるように配色を工夫する子。疑問に思ったことを担当者に質問する子。考えることが楽しいのか、一つの活動に１時間以上も取り組む子。

楽しみ方はいろいろですが、うまくできたときの子どもたちの充実した表情を見るのはうれしいことです。

お子さんの隣では、保護者の皆さんも一緒になって活動を楽しんだり、頑張って活動するお子さんの様子を写真に撮ったりしていました。アンケートの一部を紹介します。

- サイコロ万華鏡の中がすごかった。アイスが食べられて嬉しかった。（小学生）
- カタパルト飛行機がすごく飛んでおもしろかった。（小学生）
- 去年よりもすごく楽しかったし勉強になった。（小学生）
- フェスティバルがめちゃくちゃ楽しかった。来年もまた来たい。（小学生）
- 毎年参加しているが、夏休みの自由研究のきっかけ作りとなり大変助かっている。子どももとても喜んでいる。また来年も参加したい。（保護者）
- 初めて参加したがとても楽しかった。子どもと夏休みの思い出を作ることができた。（保護者）

ところで、この行事が21年間も子どもたちの科学する心を魅了するその秘密はなんでしょうか。それは、ブースを出展する団体の皆さんの専門性と情熱、そして子どもたちの活動をサポートする活動支援スタッフの丁寧な対応にあると思います。ブース出展者からの振り返りの声を紹介します。

- テーマを２つ用意したが小学生の参加者が多く、分かりやすいテーマの方が喜んでくれた。
- 生徒が主体となった受付や活動を支援する側になる様子を見ることで、生徒の成長を実感した。
- 子どもたちの言葉遣いがとてもよい。保護者の皆さんも協力的で一日楽しく過ごすことができた。
- 参加者のみなさん、まじめに取り組んでくれた。
- 活動支援スタッフの先生方がとても協力的でありがたかった。
- 活動支援の中学生や高校生も生き生きとやっていた。



ブースの出展団体には、それぞれの分野の専門家や科学的な活動に興味のある生徒さんたちが集まっています。そうした皆さんが「今年も楽しんでくれてよかった」「今回のは、ちょっと難しかったかな」と参加者の反応や活動の様子を参考にしながら、三条市の子どもたちのために、よりよいテーマを考えてくれています。来年度の第22回目わくわく科学フェスティバルが、さらに魅力あるものになるよう計画していきたいと思います。

各学園の取組紹介

一貫教育の充実と統合を見据えた取組
－第２回しただの郷学園教育研究会－

しただの郷学園


樋口教育センター長よりご指導

７月 31 日（金）、飯田小学校にて「第２回しただの郷学園教育研究会」が開催されました。本会は小中一貫教育の充実と、令和 10 年度の小学校統合を見据えた取り組みです。

第１部では、教育センター長 樋口　信英 様より小中一貫教育のよさや統合に向けた取組について御指導をいただき、その後、各教科・領域の部会に分かれて小中一貫教育カリキュラムの見直しについて協議しました。

続く第２部では、教務や各学年など６つの部会に分かれ、小学校統合に向けて「早めに取り組めそうなこと」や「計画的に準備を進めること」を軸に、活発な意見交換が行われました。また、最後の第３部では、統合先となる飯田小学校の校舎や教材・教具の見学を行いました。

他校の教員と顔を合わせて意見や情報を交換することで、地域とともに一体となって教育の充実を図る有意義な機会となりました。


学年・領域ごとの話合いの様子

三条学園

広がる交流　継続した取組
－ スポーツ交流会、メディアコントロール週間 －

７月７日（火）に、三条学園６年生による「スポーツ交流会」を、三条市体育文化会館で実施しました。この交流会では、子ども達が運動を通して交流を深めることを目指しています。猛獣狩りやフラフープくぐりなどのレクでは弾けるような笑顔と歓声が響きました。アルビレックスランニングクラブのコーチから教わる走り方のコツにも目を輝かせて挑戦しました。「他の学校の人と一緒に活動できてよかった」という子どもたちの声があり、両校の６年生が温かい絆で結ばれました。第三中学校への進学に向けた素敵な一歩となりました。


7/7（火）スポーツ交流会の様子

７月９日(木)～15 日(水)に学園メディアコントロール週間を実施しました。「家庭でメディア機器利用のルールを決めたり見直したりする」「ノーゲーム・ノーメディアデーを１日以上設ける」等を重点的に取り組みました。また、昨年度から毎月第三水曜日を「学園メディアコントロール day」とし、月に一回家庭でのメディア利用について継続的に見直すことができるように取り組んでいます。これらの取組の成果や課題について、９月の学園学校保健委員会で共有し、さらに効果が上がる取組となるよう検討を重ねていきます。

２学期に向けた準備 着々と
－ 瑞穂学園第２回職員研修会 －

瑞穂学園

７月 27 日（月）に瑞穂学園第２回職員研修会を実施しました。午前中は小中学校ごとにＳＬＱ研修を実施し、上越教育大学 高橋 教授より生徒の状況について説明を受け、理解を深めることができました。午後からは職員全体研修を実施し、（株）ベネッセコーポレーションの方よりＡＩドリルによるドリルパークやテストパークの使い方についての研修を行いました。２学期の教育活動に向けて良い準備ができました。研修後半では、２学期実施予定の一人一実践の授業構想に対し意見や助言を交わし、互いの構想を練り上げました。



熱心に参加する教職員（ＳＬＱ研修）



互いに聴き合い積極的に意見交流

教育センター研修ウォッチ！

算数・数学指導力向上研修
令和8年7月28日（火）・29日（水）開催

新潟大学附属長岡小学校の 荒井　琢郎 様と、新潟大学附属長岡中学校の 柴野　浩輔 様を講師にお招きし、三条市授業スタンダードを基に、算数・数学科における「対話」の在り方について研修を行いました。算数と数学を別日に開催し、参会者同士や講師との学び合いによる充実した研修となりました。

荒井様からは、「前時とのずれを意識した導入」「子供が数学的な見方・考え方を働かせるための工夫」について御教示いただきました。グループでこれまでの実践を振り返りながら、夏休み明けの授業でどのような工夫ができそうか話し合いました。



数学の授業づくりに関する御講演の様子

柴野様からは、「子どもの理解を促す構造的な板書」「教材の工夫」について御教示いただきました。中学校１年生（７年生）の一次方程式の場面を基に、予想される生徒の考えをどのように生かして授業を進めるかをグループで考えました。生徒の考えをつなぎ、学級全体の学びを深める教師の働きかけについて、具体的に学ぶことができました。

御講演や互いの実践・考えの交流を通して、日々の授業改善につながる新たな授業づくりの視点を得る研修となりました。

参会者の感想（一部抜粋）

- 荒井先生の御講話から学習問題「◎」の設定や、対話を取り入れることのよさについて学ぶことができた。子供に寄り添い、考えを大切にしていくことが大切だ感じた。【算数】
- 三条市授業スタンダードの内容を改めて確認することができた。特に、対話活動について具体的なお話を伺うことができ、非常に参考になった。方程式の導入場面についても、ぜひ実践してみたいと思った。【数学】